

博士論文

学校危機における緊急支援の
支援者のための研修プログラムの開発
および有用性の研究

2019年度

松浦 正一

東京成徳大学

論文概要

学校危機において緊急支援を行う支援者（指導主事，心理職，福祉職）が，それぞれの役割によって，どのような支援を行うと児童生徒の心の安定が図られ，早期に日常の学校生活を送れるようになるのか，その標準的な支援内容が明確になっていない。そこで本研究では，学校危機における緊急支援において効果的で標準的な緊急支援の内容を明らかにし，それを行うための緊急支援における支援者のための研修プログラムを開発することを目的とする。

まず，自由記述による研修のニーズを明らかにした。その結果，指導主事は管理職をサポートするための研修を，心理職は緊急支援全体の流れが具体的にイメージしやすい研修を，福祉職は実際の緊急支援でスクールソーシャルワーカーが参加したときの動きや多職種の役割や支援内容に関する研修を望んでいた。

さらに学校危機における支援者（指導主事，スクールカウンセラー（以下，SC），スクールソーシャルワーカー（以下，SSW））が行う緊急支援の内容（三職種共通の支援内容，それぞれの支援内容や役割分担）について明らかにした。調査はX市の緊急支援の研修を受講した129人の援助職（指導主事，SC，SSW）に対して質問紙調査を実施した。調査内容は職種や学校危機における緊急支援の経験回数，緊急支援で行ってきた支援内容と行った支援内容が効果的であったかどうかについてであった。

そして緊急支援の経験がある指導主事 10 名，SC49 名，SSW12 名の回答を分析対象とした。

その結果，緊急支援における，指導主事，SC，SSW の役割や支援内容の特徴や緊急支援の基盤となる支援内容が明らかになった。指導主事の主たる役割はコーディネーション，SC は心理教育，SSW は環境への働きかけであることが示された。緊急支援における基盤となる支援は，学校危機に関する情報の収集と共有を通じたアセスメントや心身の健康や安全の配慮を要する児童生徒の把握を行い，それを教師へのコンサルテーションに役立てるという一連の流れであることが明らかになった。

これらのことから基盤となる支援内容と三職種が実施すると効果があると回答した支援内容に基づいて標準研修プログラムを開発し，その短縮版を 2018 年 2 月から 7 月にわたって 3 回実施した。この短縮版の研修プログラムの有用性を確かめるために研修の前後に緊急支援に関わることへの情緒的な面や緊急支援に関する理解度に影響を与えるのか，また支援経験によって与える影響が異なるのか，を分析し，短縮版の研修プログラムの有用性を明らかにした。支援経験が経験のある，なしに関わらず研修の効果が認められた。特にケアプランの策定と心理教育を中心とした研修プログラムが未経験者に効果があることが示された。

さらに，研修プログラムが受講生の専門業務にどのような影響を与えたのかを検証し，研修プログラムの有用性を明らかにするために研修プ

プログラム修了後に追跡調査を行った。その結果、支援経験の有無にかかわらずそれぞれの専門業務に役立っていることが示された。同時に研修と実践の繰り返しの中で緊急支援の実践力が培われる可能性が示唆された。また、緊急支援で外部の支援チームが活動を行う場合に支援の目的や方針を学校側と共有し、理解されることで学校内部と外部の支援チームが有機的に機能する可能性が示された。その一方で緊急支援チームの支援者への心理的なケアについて対応していくことも急務であることが示された。